

TNC
通信

2022
10月号

10月10日10時—『富谷宿・街道まつり』!

3年ぶりに「富谷宿・街道まつり2022」(実行委員会・松田勝幸委員長)が開催されることになり、富谷市日中友好協会も理事会で協議し、参加することになりました。今回はコロナの影響も考慮し大名行列や吹奏楽パレードなどはありませんが、新たに開業した“とみやど”のステージで「伊達武将隊演舞」等の催しが企画されています。

当会は「上海邨」様のご協力で“焼き小籠包”の販売等で交流を深めたいと考えています。なお当会の出店場所はメインのイベント会場“とみやど”の後側(写真)の“しんまちめぐり第1駐車場”となります。ご家族、ご友人と遊びにおいで下さい!



寅(トラ)の諺

「虎を縛するには急にせざるを得ず」一虎を捕獲するには、素早くすることが必要だ。勢いが盛んで制御しにくいものを取り押さえる時は、素早い行動が必要であるという事。(『三国志』)

北京・東京及び各県協会を結び「記念交流会議」を開催!!



日中友好協会と中日友好協会の共催による、国交正常化50周年を記念し、オンラインで結んだ交流会議が9月15、16日の二日間に行われ、県協会事務局では佐々木会長、水戸理事長が参加しました。

§「富ヶ丘公民館まつり」は中止§

10月15日に開催を予定しておりました恒例の「公民館まつり」は、コロナの影響を考慮し、各サークルの意見に基づき、実行委員会で残念ながら中止の判断となりました。

正常化 50周年 私の想い

“大学生訪中団”に随行して思った事 理事 吉澤 千明

(公社)日本中国友好協会は、中国政府の要請を受け2015年から2019年まで「日中友好大学生訪中団」(1団体100人規模)を毎年派遣していました。日本の大学生に自らの「五感」で中国の文化や生活習慣を体感してもらうこと、また中国の大学生との交流を通じてより客観的に中国を理解してもらうことを目的として行われていました。私は2016年から7回、訪中団の随員として中国に行き、学生交流に立ち会いました。多くの中国人学生は、

日本語がとても上手でした。彼らの多くは日本のアニメや漫画がきっかけで日本に興味を持ち日本語を学んだそうです。

日中両国の学生は日本語や英語でディスカッションし相互理解を深めていました。日本人大学生の多くは学生時代にアルバイトをするのに対して、中国人学生は勉強する時間を確保するためにアルバイトをしないという事、結婚観については日本の学生は当人同士の思いが最優先と考え、中国の学生は親が認めることが最優先と考えるなど、両国の学生の間には考え方に違いがあるという事を肌で感じていました。考え方に違いがあっても両国の学生は交流を通して友情を育んでいました。

今、日本と中国の間はあまり友好的ではないと言われていきます。国と国のお付き合いについて私は関わる事ができません。私には多くの中国の友人がいます。考え方が違うと感じることはありますが、嫌だと思ったことはありません。中国の友人とこれからもずっと仲良くしていきたいと思っています。これから少しずつ交流イベントが開催できるようになると思います。コロナが落ち着いたなら皆さんと思いっきり楽しく交流したいです。そしてまた訪中団が派遣され、両国の学生が直接交流出来るようになることを切に願っています。

「日中国交正常化50周年 記念講演会」開催します!

＜主催＞宮城県日中友好協会
＜日時＞11月6日(日)14時～15時半

＜会場＞江陽グランドホテル(仙台市青葉区本町 2-3-1)

＜講師＞莫邦富(モー・バンフ)氏＝ジャーナリスト、作家。1953年上海生まれ。1985年来日。

＜テーマ＞「日中交流の地方発信に感じた手応え」

＜申し込み方法＞入場無料ですが、先着申し込み100名です。富谷市日中で取りまとめますので、横山事務局長か水戸理事長宛にメールや電話などで早めに申し込みの連絡を入れて下さい。